



## 新しい1年を迎えるにあたり



会長 宮崎 豊彦

年頭にあたり謹んで御祝詞を申し上げます。

会員園の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのことと存じます。

昨年を振り返ると、令和2年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は3年目に入り、ほとんどが緊急事態宣言、まん延防止期間だった1年前に比べると、少しずつではありますが、我々の生活も通常に戻りつつあります。しかし、依然として感染のリスク下におかれている状況は変わりなく、引き続き対策に留意する日々が続いた1年となりました。本稿執筆時点では、冬季に入り第8波の到来も報道されておりますが、早くこの不安が取り除かれるよう、祈るばかりです。

当協会の活動についても、徐々にではありますが、従来の活動に戻りつつあります。令和2年度においては会場開催を中止とし、令和3年度においては、「オンラインTOKYO保育園フェア」として開催した「TOKYO保育園フェア」も、今年度は十分な感染症対策を行った上で、3年振りに実地開催致しました。また実地開催のフェアとの相乗効果を図るため、令和4年10月14日から令和5年2月28日の期間で、「オンラインTOKYO保育園フェア」を昨年に引き続き開催しております。東京の保育園で就職を目指す学生と会員園の皆様とのより良いマッチングを目指し、来年度も引き続き開催してまいります。

同様に、ここ数年リモートで行ってきた養成校との交流会も、久し振りに実地で2回開催しました。また、他団体との交流としては、開催を見送ってきた東京都社会福祉協議会保育部会との懇談会、新しい試みとして東京都私立幼稚園連合会との懇談会を対面で開催しました。リモートというツールの便利さを感じる一方で、直に対面で交流することの良さや重要性を改めて実感させられました。

第5回となったTOKYO保育フォトコンテストは、会員園115ヵ園から497作品に及ぶ応募をいただき、Web上で各賞を選考しました。また今回から新たに会員園の皆様による投票を取り入れ、選考の基準と致しました。受賞作品は、11月18日～19日にTOKYO保育フォト展会場「アーツ千代田3331」で、検温、消毒、ソーシャルディスタンスといった感染予防対策のもと展示させていただきました。コンテストの表彰式については、過去2年は新型コロナウイルスの影響により開催を見送っていましたが、今回3年振りに感染症対策を行った上で執り行いました。回数を重ねる毎に応募される作品の秀逸さはどんどん増していくように見受けられ、応募作品の中の子ども達や保育に携わる職員の方々の笑顔、いきいきとした表情が、我々に多くの元気と勇気を与えてくれるコンテスト・フォト展になったと思います。引き続き社会に認可保育園の素晴らしさを伝えていくために継続していく予定ですので、ご応募の程宜しくお願い致します。

また、令和4年度当初における東京都内の待機児童数は、前年度の約1,000人から更に減少し、300人となりました。待機児童減少が顕著である一方、各施設における定員の未充足については依然として深刻な問題として現前しております。本件については、当協会としても継続的な調査・分析を行うとともに、東京都に対しての予算要望活動が今後も必要と考えております。引き続き会員園の皆様の保育園運営にとって有益となるよう、情報提供や要望活動などを行ってまいりたいと思います。

新しい1年を迎えるにあたり、1205ヵ園の会員園の皆様と協力しながら、日本の将来を支えるすべての子どもたちが、様々な体験を通し健やかに成長していける社会の構築を目指して、活動してまいりたいと存じますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。